

平成 25 年度新体制がスタート！

～鹿児島県知的障害者施設家族会連合会(略称 鹿施連)～

6月19日(水) ハートピアかごしまにて、平成25年度評議員会(総会)が開催されました。初めに24年度事業報告・収支決算報告、25年度事業計画・収支予算案を審議、全員一致で原案通り承認されました。続いて、本年度新役員・規約改正案が提案され、真摯に審議された後、了承されました。

提起された問題や意見

- ・家族会に加入する施設や会員を積極的に拡大する。
- ・鹿施連や事務局の活動を支える財政基盤を強化する。
- ・支部に対する補助金の使途を明確にする。
- ・運動の発展の為、議会・行政への働きかけだけでなく署名活動等にも取り組む

なお、今回の規約改正は、主として事務局を独立させたことに伴うもので、鹿児島県知的障害者施設家族会連合会の諸活動の一層の充実、発展に寄与するものです。各施設には後日、送付させていただきます。今後の運動の指針としてご活用ください。



鹿児島県知的障害者施設家族会連合会新役員 (平成 25～26 年度)

役職名	氏名	施設名	支部名
会長	兼廣 倫生	あおいとり	鹿児島
副会長	伊尻 幸雄	いずみ園	北薩
	野間口秀世	吉田愛青園	鹿児島

役職名	氏名	施設名	支部名
会計	内村浩子	セルブ鹿児島	鹿児島
監事	中村俊久	しょうぶ学園	鹿児島
	前田隆幸	セルブ伊敷	鹿児島
事務局長	岡元鐵哉	サポートなごみ	鹿児島

各地区の理事名

支部	役職名	氏名	施設名
鹿児島	支部長	兼廣 倫生	あおいとり
	副支部長	野間口秀世	吉田愛青園
		田畑 安夫	あさひが丘学園
南薩摩	支部長	廣田 健一	ふるさと学園
	副支部長	内村 勝美	光の里
北薩摩	支部長	伊尻 幸雄	いずみ園
	副支部長	二見 誠弘	薩来園

支部	役職名	氏名	施設名
大隅	支部長	宮蘭 利郎	和光学園
	副支部長	野間 豊	新樹学園
奄美・種子屋久	支部長	松下 政治	あかつき学園
	副支部長	生元 為一	滝の園

兼廣倫生 新会長就任の抱負

今回、鹿児島県知的障害者施設家族会連合会の会長をさせていただくことになりました。

ご存知のように本会は、全ての知的障害者施設利用者の福祉向上を図り、その生活と権利を護ることを目的としています。同時に、会の憲章にもありますように、我が子らの幸せを侵害するあらゆる施策に対しては全力を挙げて立ち向かうこと、また、知的障害者・児のすべての親や家族が手を取り合うことの重要性を認識し、物言えぬわが子らに代わって正しい意見を言うことであります。

私たちは異なる意見であってもお互いに尊重し、我が子らの幸せのために、よく話し合い、勉強し合い、知り得たことをみんなで共有することで大きな力を生み出していきたいと思えます。

施設は知的障害者・児が生活し、サービスを受け、人生を豊かにするために不可欠なものであります。私たちの活動は、施設経営者をはじめ職員の方々と一体になって施設改善に取り組むことが必要です。勿論、その前提として社会の理解と協力を強めていくことは当然のことです。

浅学非才の身ではありますが、皆さま方とともに力を合わせ本会の発展のために頑張る所存です。



藤井厚子 前会長退任のあいさつ



この4年間は私にとって、大変有意義なものでした。

知的障害を持った子どもたちの幸せのために、国や県の福祉関係の方々とは話し合ったり、全国の仲間たちと交流を深めたり、文字通り東奔西走の日々でしたが、充実した4年間でした。

今年度から事務局が独立するようになったことや家族会の会報『かごま家族ねっと』の創刊も喜ばしいことでした。寸暇を惜しんで我が子ら幸せの為に誠心誠意頑張り、非力な私を支えてくださった仲間の皆さんに心

より感謝いたします。

我が子らが、親亡きあとも福祉施設等で自分の居場所を確保し、様々な人の理解・善意や熱意に支えられて、心地よく過ごす・・・それが当たり前のことになりますよう私たち全施連・鹿施連の運動がいつそう飛躍することを願っています。

皆様方のこれまでのご厚誼・ご厚情に深く感謝し、衷心よりお礼申し上げます。今後は家族会の一会員として活動することをお誓いして退任の挨拶とさせていただきます。

【参考資料】全施連の発足当時に決められたものです。

全施連の目的 全ての知的障害者施設を利用する人の福祉向上を図り、その豊かな生活と権利を護ることを目的とする。

- 全施連の憲章**
- 1 本会は我が子らの幸せを追求すること。反面、我が子らの幸せを侵害するあらゆるものに対し、全力を挙げて立ち向かうこと。
 - 2 本会は知的障害者の全ての親や家族が手を取り合うことの重要性を認識すること。
 - 3 本会はもの言えぬ我が子らに代わって正しい意見を言うこと。

平成 25 年度事業計画

- *平成 25 年 5 月 9 日 第 1 回理事会（敬天閣）
- *平成 25 年 5 月 21 日・22 日 全施連九州協議会（宮崎）
- *平成 25 年 6 月 11 日・12 日 全国知的障害者施設家族会連合会（全施連）社員総会（大阪）
- *平成 25 年 6 月 19 日 平成 25 年度鹿児島県知的障害者施設家族会連合会評議員会・総会
- *平成 25 年 7 月 10 日 第 2 回理事会（ハートピアかごしま）
- *平成 25 年 9 月 12 日 第 3 回理事会（ハートピアかごしま）
- *平成 25 年 10 月 22 日・23 日 第 9 回全国知的障害者施設家族会連合会（全施連）全国大会
- *平成 25 年 11 月 15 日 第 4 回理事会（ハートピアかごしま）
平成 25 年度研修会（ハートピアかごしま）
 - ・「全国大会（北海道・札幌市）の大会報告」
 - ・「テーマ（仮称） 家族の高齢化・障害者の高齢化に伴う課題は？」
- *平成 26 年 1 月 25 日 第 5 回理事会（ホテル京セラ）
家族会並びに施設職員研修会（同上）
 - ・鹿児島・北薩摩地区が発表担当

「一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会全国大会 in 札幌」の案内

期日	平成 25 年 10 月 21 日（月）前夜祭	大会テーマ
	10 月 22 日（火）大会	知的障がいを持つ人の生涯を考える
	10 月 23 日（水）大会	
場所	札幌市中央区南 6 条西 1 4 丁目 2-1 ホテルライフオーソ札幌	各施設家族会に案内の詳細をお届けしてあります。 今回は、鹿施連からの費用の補助はありませんので 各施設家族会・個人の負担となります。

全施連九州協議会のご報告

5 月 21 日（火）から 2 日間の日程で全施連九州協議会が宮崎市にて開催されました。沖縄を除く九州各県から 21 名の方が参加し有意義な会となりました。

主たる議事は次の 2 つでした。

1. 各県の活動状況の報告
2. 九州協議会のあり方

1 については、「介護保険への移行について」「施設の危機管理」「相談支援事業について」「施設入居者の帰省中の日中介護支援の是非」等の問題提起が行われ、多くの意見が出ましたが、各県の置かれている状況も異なり結論を出すまでには至りませんでした。法律の盲点の指摘もあり、今後更に検討・学習する必要性を痛感しました。

2 については、今年度より全施連九州協議会（全国障害者施設家族会連合会）として発足させることに決定しました。

目的は「知的障害者・児」の安心、安全で快適な暮らしを目指し活動することです。参加人数は各県 2~5 名とし、開催地は原則として各県持ち回りにし、年 1 回 7 月上旬に行うことなどを話し合いました。全施連や各県単位の活動を支え、知的障害を持つ我が子らの幸せのための牽引力としての役割が期待されます。

全施連社員総会に参加して

さる6月11日（火）12日（水）の両日、大阪において一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会（全施連）の社員総会が開催されました。

障害者権利条約の批准に向けた動き活発！

開会の挨拶で、政府・与党ペースで障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備が進んでいることが指摘されました。全施連の方針と全て合致するものではないが、「障害者総合支援法」を3年後に検討するという附則を書かざるを得なかった背景に、我々のみならず多くの障害者団体の存在と運動があり、政府・与党が無視できないという現実があり、これは運動の成果であると評価されました。

平成25年度事業計画・会計予算案原案通り承認！

事業計画案では、『障害者総合支援法の3年後の見直しに向けて知的障害者の暮らしの向上を訴えていくこと。虐待防止法・差別解消法・成年後見制度に関する情報の共有化と研修を深めること』等の方向性が提起されました。

会計予算案では、全施連の活動の活発化に伴い資金不足が顕著になっていることが説明されました。財政の窮乏化を具体的に詳らかにし、各県に会費値上げを要請せざるを得ない状況にあるとの認識でした。

また、沖縄学園問題について当事者の東恩納さんより全施連の支援に対し感謝の意が表明されました。

デンマークの視察報告

参加の3名の方から『福祉の基盤が異なる。』『自己選択・本人の意思尊重の精神が徹底している。』『全人格を見る・全障害を見るが福祉の基本になっている。』等の感想がありました。国情や高福祉・高負担の福祉政策の歴史、社会状況の明確な違いに複雑な思いを抱きました。

組織拡大は全施連の急務！

2日目は全施連活動についてのフリートークでした。障害者支援施設における配置医師（嘱託医）の診療報酬と保険医（一般の医師）のみだり診療に関する問題提起がありました。多くの課題を抱えている事項ではありますが「入所者の人権」に係ることであり今後の動向に注意が必要です。

組織の拡大についても論議がありました。各施設長への協力の依頼、育成会との協同・協調を推進すべきとの意見が出されました。

最後の挨拶で、副理事長から『全施連の提言を自分のものとする活動を』『手弁当からの脱却を』等を当面の課題として挙げられ、参加者の各県における活動の深化に期待するとまとめられました。



全施連の活動の様子をお確かめ下さい。

全国知的障害者施設家族会連合会の活動の様子が下記に紹介されています。

ホームページ <http://zenshiren.web.fc2.com/> をご覧ください。

尚、「かごっま家族ねっと」など各県の連合会が発行した会報も紹介されておりますので、他県の活動等をぜひ参考にしてください。

[編集部からのお願い・編集後記]

会報「かごっま家族ねっと」第2号をお届けします。読み辛い部分もあることと思いますが、ご容赦ください。今回は年度初めであり、総会、大会等の報告や新体制の紹介が中心になってしまいました。

次号では、大会等の報告だけでなく、各支部の活動の様子や各施設家族会の活動も紹介いたします。